

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 553 号	氏名	Doan Hai Yen
学位審査委員	主 査 金子 修 副 査 平山 謙二 副 査 濱野 真二郎		
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、G1P[8]株を用いたロタウイルスワクチンが数か国で導入された後、G2P[4]株が世界各国で増えたという現象を背景に、(1) ロタウイルスの G2 株の分子進化学的变化を明らかにし、さらに、(2) 北日本の G2P[4]株で観察された単一遺伝子分節組換え体の出現と消失について国内の多数の分離株を用いて解析し、その疫学的な意義を明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>(1) では、ネパールで採集した G2 株ロタウイルスの塩基配列を決定後、データベースから得た塩基配列とともに系統解析をし、(2) では、北日本で採集した G2P[4]株ロタウイルスの一部を全ゲノム解析し、その結果で見出した遺伝子分節について、残りの株でさらに解析を進めたもので、研究手法も妥当である。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、(1) ネパールにおいて 1991 年頃から G2 株で系統 IVa の割合が増えてきたが、それは、新たに出現した系統が集団の中で優位になってきたものと考察した。また、(2) 北日本で得られた G2P[4]株ロタウイルスの 3分の1 が nonstructural protein 2 (NSP2) 遺伝子分節の単一遺伝子分節組換え体であることを見出し、ロタウイルスのゲノムのダイナミックな進化を考察した。以上、考察は適切であり、今後のロタウイルスの分子疫学研究への進展が大いに期待される。</p>			
以上のように本論文はロタウイルスの分子疫学研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士(医学)の学位に値するものと判断した。			